構造関係

1．総則

1．1　適用範囲

（1）構造関係共通図（配筋標準図）は、[illegible]ート及び鉄骨鉄筋コンク[illegible]における鉄筋の加工，組立等の一般的な標準図を表わす。

（2）構造関係共通図（鉄骨標準図）は、鉄[illegible]コンクリ[illegible]鉄骨の加工，組立の一般的な標準図を表わす。

（3）構造関係共通図（配筋標準図，鉄骨標準図）[illegible]督職員の指示による。

[illegible]先順位

[illegible]度間で配筋方法に相違がある場合の優先順位は以[illegible]おりとする。

[illegible]特記仕様書（構造関係）

[illegible]下記以外の図面

[illegible]関係共通図（配筋標[illegible]準図）

3．国[illegible]官庁営繕部[illegible]工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」

1．3　用語の定[illegible]

（1）設計図とは、[illegible]様書，構造関係共通図以外の図面をいう。

（2）異形鉄筋の径（[illegible]て「D，d」で示す）は，呼び名に用いた数値とする。

（3）長さ，厚さ等の単位[illegible]なければmmとする。

1．4　記号等

設計図中で使用する記号は，表1～表8，図1を標準とする。

表1　鉄筋の断面表示

区分＼径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建　築	●	×	⌀	●		⊙	⊗	◎

表2　各階伏図における[illegible]

記　号	説　明	記　号	説　明
S[illegible]	スラブの配筋種別		[illegible]
◇	スラブ厚さ		試験杭の[illegible]
○	階段の配筋種[illegible]		打増しの範囲
D0	土間コ[illegible]		スラブ開口
═══	コンク[illegible]壁（ＣＢ壁）		ボーリング位置
▨	梁・スラブの[illegible]範囲		FLからの上がり下がり
[illegible]	耐力壁の種別 片持スラブ形階段を支[illegible]○○ [illegible]の種別 [illegible]け，かつ耐力壁の種[illegible]		一般壁の種別 片持スラブ形階段を受け，かつ耐力壁の種別

表3　梁[illegible]

区分	[illegible]	150	175	200	[illegible]	275	300	325	350	375	400	
建　築												

[illegible]ープ材質の凡例

記号	[illegible]	溶融亜[illegible]鉛[illegible]管	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き鋼管（黒管）
		GL	VU	RS

[illegible]用以外の[illegible]工事による。

表5　高力[illegible]定の記号

径	M12	M16	M20	M22	M24
[illegible]	●	●	●	●	●
[illegible]					
溶融亜鉛め[illegible] (F8T)[illegible]					

表6　普通ボルト径の[illegible]

径 / 区分	M12	M16	[illegible]
普通ボルト	○	⊕	⊕

表7　溶接方法，溶接継手及び溶接面の分類記[illegible]

			記号
溶接継手	完全溶込み溶接	突合わせ	B
		Ｔ型継手	
		かど継手	
	隅肉溶接		
	部分溶込み溶接		
	重ねアーク溶[illegible]		ＦＬ
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接		2

区[illegible]	記号
場[illegible]	
[illegible] 接	
全[illegible] 接	
断面溶接[illegible]	ＬーＰ

[illegible]の間隔

き限り，完全溶込溶接の溶[illegible]切な溶接方法等による。

図1　溶接記号の[illegible]

標準仕様書　5章　[illegible]工事[illegible]工及び組立よ[illegible]粋

5．3．2　加工

（2）次の部分に使用する異形鉄筋の末端に[illegible]する。

（ア）柱の四隅にある主筋の重ね継手

（イ）最上階の[illegible]隅にある主筋の柱頭の定着[illegible]

（ウ）[illegible]の両隅にある梁主筋の重ね[illegible]

（[illegible]一部となる場合を含む。）

[illegible]ース筋

[illegible]，あばら筋及び幅止め筋

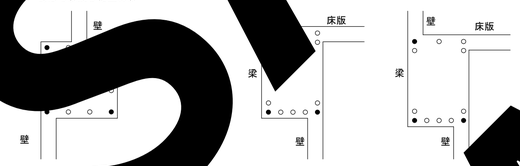
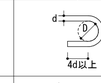
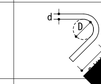
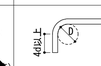


図3.[illegible]　末端部にフックを必要とする出隅部の鉄筋（●印）

（3）鉄筋の折曲げ形状及び[illegible]は，表5.3.1による。

なお，異形鉄筋の径（この節の本文，図及び表において「d」で示す。）は，呼び名に用いた数値とする。

表5.3.1 鉄筋の折曲げ形状及びす法

折曲げ図	鉄筋の種類	[illegible]	SD390
	呼び名	D16[illegible]	D19～D38	D19～D38
180°		4d以上	4d以上
135°			
90°			
135°及び[illegible]			

（注）1．[illegible]先端，壁筋の自由端側の先端で90°フック又は[illegible]用いる場合には，余長を4d以上

2．[illegible]の内法直径は特記による。

3．4　継手及[illegible]

鉄筋の継手は，[illegible]圧接継手，[illegible]溶接継手とし，適用は特記による。

[illegible]則として，D35[illegible]ついて[illegible]を用いない。

[illegible]の継手位置は，[illegible]

[illegible]の重ね継手は，次に[illegible]い鉄筋の径による。

[illegible]径が異なる鉄筋の重ね[illegible]

[illegible]及び梁の主筋並びに耐力壁[illegible]ね継手の長さは，特記による。特記がなければ，耐力壁[illegible]手の長さは，40d（軽量コンクリートの[illegible]は50d）又は表5.3.2の重ね継手の長さのうちいずれか大きい[illegible]

（ア）以外の鉄筋の重ね継手の長さは，表5.3.2による。

表5.3.2 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）(N/mm²)	L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295	18	45[illegible]	35d
	21	[illegible]	30d
	24，27	35d	25d
	30，33，36	35d	25d
SD345	18	50d	[illegible]
	21	[illegible]	[illegible]
	24，[illegible]	[illegible]	[illegible]
	30[illegible]	[illegible]	[illegible]
SD390	[illegible]	[illegible]	35d
	[illegible]	[illegible]	35d
	[illegible]	[illegible]	30d

（注）[illegible]，L1h：重ね継手の[illegible]長さ

[illegible]は，図5.3.1に示す[illegible]い。

[illegible]クリートの場合は，[illegible]たものとする。

[illegible]クありの重ね継手の[illegible]

（4）隣り合う継手の位置は，表5.3.3による。ただし，[illegible]の場合及び[illegible]除く。

なお，先組み工法等で，柱及び[illegible]主筋のうち，隣り合う[illegible]特記による。

[illegible]3 隣り合う継手の位[illegible]

（5）[illegible]，次に[illegible]

[illegible]定着の長さは，特記による。特記がなければ，表5.3.4による。

表5.3.4 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の[illegible]	コンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）(N/mm²)	直線定着の長さ L1	直線定着の長さ L2	直線定着の長さ L3 小梁	直線定着の長さ L3 スラブ	フックあり定着の長さ L3h [illegible]	フックあり定着の長さ L3h スラブ
SD295	18	45d	40d			35d	
	21	40d	35d		10d	30d	
	24，27	35d	30d		かつ	25d	20d
	30，33，36	35d	30d		150mm以上	25d	20d
SD345	18	50d	40[illegible]		[illegible]ラ	35d	30d
	21	45d	3[illegible]			[illegible]0d	25d
	24，27	40d	35[illegible]			[illegible]	[illegible]
	30，33，36	35d	30d			[illegible]	[illegible]
SD390	21	50d	40d			35[illegible]	
	24，27	45d	40d			[illegible]	
	[illegible]	40d	35d			[illegible]25d	

（注）1．L[illegible]で以外の直線定着の長さ及び[illegible]の長さ

2．[illegible]破壊のおそれのない箇所への直線定着[illegible]ックありの定着の長さ

3．[illegible]及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただ[illegible]スラブ及びこれを受ける小梁は除く。

[illegible]小梁の下端筋のフックありの定着の長さ

[illegible]りの定着の場合は[illegible]にフック部[illegible]い。また，中間部での折曲げは行わない。

[illegible]リートの[illegible]のとす[illegible]

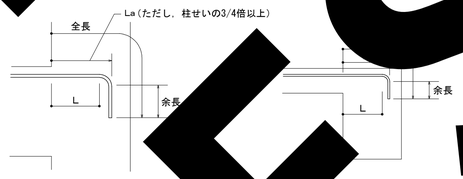
図5.3.2 直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ

[illegible]イ）仕口内に縦に折り[illegible]る鉄筋の定着長さしが，表5.3.4のフックありの定着の長[illegible]ない場合の折曲げ定着の方法は[illegible]特記がなければ，図5.3.3により，次の(a)から(c)ま[illegible]のとする。

全長は[illegible]定着の長さ以上とする。

[illegible]。

[illegible]外面までの投影定着長さLa及びLbは，表5.3.5に示す長さ[illegible]し，梁主筋の柱内定着において[illegible]3/4倍以上とする。



梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ　[illegible]上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

図5.3.3 折曲[illegible]

表5.3.5 投影定[illegible]

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度（Ｆｃ）(N/mm²)	[illegible]	Lb
SD295	18	20d	15d
	21	15d	[illegible]
	24，27	15d	[illegible]
	30，36	15d	[illegible]
SD345	[illegible]	20d	[illegible]
	[illegible]	20d	20d
	24，[illegible]	20d	15d
	30，33，[illegible]	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24，27	[illegible]	20d
	[illegible]，33，36	[illegible]	15d

（注）1．La[illegible]

2．L[illegible]スラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持小梁及び片持スラブを除く。）

3．[illegible]リートの場合は，表の値に５ｄを加えたものとする。

（6）[illegible]ル筋の継手及び定着は，次による。

（ア）溶[illegible]び定着は，図5.3.4による。

なお，[illegible]，L2 及び L3 は表5.3.4による。

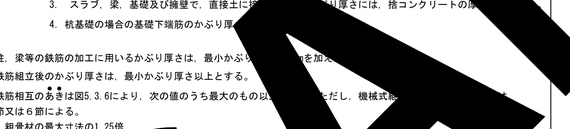


図5.3.4 溶接金網の継手及び[illegible]

（イ）スパイラル筋の継手及び定着は，図5.3.5による。

[illegible]手及び定着

5．3．5　鉄筋のかぶり厚さ及び[illegible]

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚[illegible]よる。特記がな[illegible]，表5.3.6による。ただし，柱及び梁の主筋にD29[illegible]用する場合は，主筋のかぶり厚[illegible]特以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表5.3.6[illegible]金網の最小かぶり厚さ

構造部分[illegible]			最小かぶり厚さ(mm)
[illegible]		仕上げあり	20
		仕上げなし	30
	屋内	仕上げあり	30
柱，梁[illegible]		仕上げなし	30
	屋外	仕上げあり	30
		仕上げなし	40
[illegible]壁，耐圧スラブ			40
[illegible]に接す[illegible]	柱，梁，スラブ，壁		40
[illegible]分	基礎，擁壁，耐圧スラブ		40
[illegible]高熱を受ける部分			[illegible]

[illegible]表は，普通コンクリートに適用し，軽量コンクリートには適用しない。[illegible]ある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。

2．「仕上げあり」とは，モルタル塗り等の仕上げのあるものとし，鉄筋の耐久性上有効[illegible]（仕上塗材，塗装等）のものを除く。

3．スラブ，梁，基礎及び擁壁で，直接土に[illegible]り厚さには，捨コンクリートの厚[illegible]

4．杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚[illegible]

（2）柱，梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは，最小かぶり[illegible]を加え[illegible]

（3）鉄筋組立後のかぶり厚さは，最小かぶり厚さ以上とする。

（4）鉄筋相互のあきは図5.3.6により，次の値のうち最大のもの以[illegible]ただし，機械式[illegible]５節又は６節による。

（ア）粗骨材の最大寸法の1.25倍

（イ）25mm

（ウ）隣り合う鉄筋の径[illegible](3)によるd）の平均の1.5倍

[illegible]は，鉄筋の[illegible]

[illegible]鉄筋コンクリー[illegible]する鉄骨とのあき[illegible]る。

[illegible]孔に接する鉄筋のかぶり厚さは，最小かぶり厚さ以上とす[illegible]

工　事	
設計図	
[illegible]除共通事項	令和4年版

SAMPLE